

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスウサギ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 11日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2026年 2月 11日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	受容的交流理論に基づき、袖ヶ浦市を中心に君津保健福祉圏域および市原市在住の発達障がい児の学齢期の児童に対し、集団生活の中で必要な基本的な生活習慣が身につけられるようになり家庭以外で、安心・安全な場所で「人間関係と自我を育てる療育実践」を行っている。	利用児の希望や特性、相性などを総合的に考慮し、グループ編成や活動を工夫するなど、個々のニーズに応じた支援を行っている。	施設職員の内外研修への積極的な参加を促し、また、研修の機会を積極的に設けることで、職員の資質向上に努めている。
2	同敷地内に併設されている障害児入所施設と連携し、1日のなかで短期入所と放課後等デイサービスを切れ目なく利用できるようにするなど、包括的かつ細やかなケアを実施できている。	連絡ノートや電話相談の受付、送迎時のやりとりなど、各ご家庭の状況把握に努め、多様化した家族のニーズに対して、きめ細かいケアを実現できるよう努めている。	併設の障害児入所施設と合同で10年先を見越した中期計画を策定中。より効果的な連携の在り方について、事業所を横断して検討する場を設けている。
3	児童発達支援センターが併設されており、未就学期から学齢期に至るまで、ライフステージに応じた支援を切れ目なく実施できている。	近隣の小学校や特別支援学校、併設の障害児入所施設等と積極的にやりとりを行い、必要に応じて協力を打診したり、場合によってはサポートを提供したりと、他機関と連携して利用児をケアしていく体制の構築・維持に努めている。	併設の児童発達支援センターの専門職も交えて事業所の打ち合わせを月に1度実施しており、必要に応じて助言やサポートをお互いに提供し合うことができるよう努めている。また、専門職を交えてケース検討を行う場を現在企画中。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の場所が、袖ヶ浦市の郊外にあり、公共交通機関が利用できず、送迎バスや送迎用自家用車が必要なことと、運転手の確保も課題となっている。	療育支援を行うスタッフの確保が、年々厳しくなっている。必要な人材(支援者、保育士、運転手等)の安定的確保が急務。	近年、法人のホームページなどを活用し、事業所の広報活動、リクルート活動等を積極的に行っている。
2	事業所の建物が、別目的で建てられた既存の建物をリフォームして利用しているため、保育環境としては不都合な箇所がいくつかある。	建物の建て替えを計画的に進めていくと同時に、必要な財源の確保が必要。	建物の建て替えの実現も視野に入れつつ、10年先を見越した中期計画を策定中。
3	インクルージョンの推進に関しては、他事業所や地域との交流の機会が少ない。	学校や幼稚園、保育所との連携はあるが、地域の他の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスとの交流の機会はない。	関係のある行政や、学校、幼稚園等の教育機関、その他療育機関等との連携を深め、情報共有を図り、個々の利用者にとって最適な支援を提供できるよう協力体制を構築していく。